令和元年度　右京区地域保健推進協議会　会議録

令和元年６月２５日（火）
午後２時～午後３時３０分
右京区役所　２階　講堂

１　**出席者**（敬称略）

＜委員＞

一般社団法人右京医師会会長：高島　啓文
京都市右京歯科医師会会長：吉川　栄博
右京薬剤師会会長：野村　真洋
公益社団法人京都府助産師会担当責任者：西川　和美
公益社団法人京都府看護協会右京地区代表：北川　裕美
右京区民生児童委員会会計：今井　義弘
右京区社会福祉協議会副会長：菊池　初江
三菱自動車工業(株)京都製作所管理部長：山口　利之
一般社団法人右京医師会幹事：斉藤　憲治
京都光華女子大学：諏澤　宏恵
右京区すこやかクラブ連合会顧問：齋藤　長景
右京区自治会連合会副会長：折居　弘一
右京保健協議会連合会会長：三上　雅司
右京区保育園長会：河　礼子
市民公募委員：竹下　英二
市民公募委員：松藤　悦子

＜事務局＞

右京区長：北川　洋一
右京区役所保健福祉センター長：峯　泰勝
同　　子どもはぐくみ室長：荒木　祐子
同　　健康長寿推進課長：角　真紀
同　　健康長寿推進課担当課長：牧　広美
同　　障害保健福祉課長：高見　雄
同　　子どもはぐくみ課長：藤内　令子
保健福祉局健康長寿企画課担当課長：松村　貴代
保健福祉局医療衛生センター感染症対策担当課長：井上　ひろみ
右京区役所保健福祉センター健康長寿推進課地域支援担当係長：森　典子
同　　健康長寿推進課地域支援担当：見原　和雄

２　開催挨拶

北川右京区長

３　議事

地域保健推進協議会は京都市保健所運営協議会条例により，保健所運営協議会の部会と位置づけられており，会議の議長については京都市保健所運営協議会条例施行規則に「部会長は会議の議長となる。」とあるため，部会長である高島委員が議長となる。

（以下の議事については，高島会長により進行）

（１）京都市保健所運営協議会の協議内容の報告について

・京都市保健所運営協議会について

・京都市保健所運営方針について

（２）平成３０年度右京保健センターの事業統計報告について

（３）令和元年度右京区の地域保健等の取組について

（上記について事務局から資料説明のうえ，質疑応答等）

竹下委員：平成２９年度から保健センターと福祉事務所が一緒になり，保健福祉センターとなったが，良かった点，悪かった点を教えてもらいたい。
虐待やネグレクト等の問題で，今までなら保健センター，福祉事務所の二段階であったが，一体化し，どんな形で良くなったのか。また児童相談所との関係，情報のやりとりをどうしているのか。警察との関係も教えてほしい。

藤内課長：平成２９年度に組織改正が行われ，福祉事務所の子育て支援の部門と，保健センターの母子保健の部門が一緒になり，子どもはぐくみ室になった。今まで違うフロアであったが，同じフロアになり，支援がスムーズに流れるようになった。例えば，母子保健の相談に来られた方がそのまま福祉の相談に行っていただける。他には内部でも福祉部門と保健部門が連携を取れるということがメリットである。児童虐待に関しては，これまで，児童相談所が一元的に対応していたが，今年度からは，軽度なものは子どもはぐくみ室に移管されるということになった。虐待通告に係る初期対応や，一時保護などの緊急介入は児童相談所で行っている。これに対し，子どもはぐくみ室では，調査協力や，状況確認を行っている。また母子保健で日ごろ妊産婦さんと子どもさん等，子育て世帯に接する機会があるので，その中で，きめ細かな見守りをして，児童相談所と連携を取っている。警察との関係であるが，今児童虐待で増えているのが面前 DV で，子どもの前で夫婦喧嘩をする心理的な虐待の件数が大幅に増えている。通報がまず警察に入り，警察から，心理的

な虐待ということで通告されるということが増えている。児童相談所と警察の方でも連携を図っていくということになっている。

峯センター長：保健と福祉が一体となったことで，メリットが何かというと，区民，市民の皆様方から見て窓口がわかりやすくなったことだと思う。具体的には子ども，障害，健康長寿と，この分野であればここへ行けば相談にのってもらえるかが分かりやすくなったということである。デメリットは，今まで保健と福祉で分かれていた仕事の分類を障害，子どもというような分類になったことで，職員がその分野の知識や技術を一気に習得しなければならなくなり，当初，業務を円滑にこなせなかったことであると思う。これは本庁でも同じことである。業務経験を積み重ねていくなかで解消していけたらと思っている。

松藤委員：災害時医療救護体制の構築が目に留まったので，発言させていただきたい。昨年，台風２１号の大きな被害に遭遇したが，その現場の惨状を右京区として見ていただけたのか。

北川区長：昨年は非常に災害の多い年で，台風２１号は今まで経験したことのないような災害，台風であった。右京区内で９日間停電をした地域もあり，また家屋・建物被害も２，０００件を超え，これは他の行政区と比べても一番多かったという状況だった。総務防災の責任者として，あちこち地域に行かせていただいた。職員もたくさん動員し，地域の現状把握に回らせていただいた。今まで経験したことのないような台風による被害のなかで，地域の皆様は，不安な日を過ごされたのではないかと思う。早く立ち直り，何とか普段の生活に戻れるような状況にすることが大きな目標で，私達行政が頑張っていくことはもちろんだが，地域の皆様と一緒になり，災害に強いまちを作っていかなければならないと思う。我々職員もそんなにたくさんいるわけではないが，地域に出て，現状を把握し，何とか回復しようと努めていたということはお伝えさせていただきたいと思う。

松藤委員：もう一つ感じたことは，停電時に，消防署等が，いつぐらいに停電が解消するのかを放送等により伝えてもらう等何か情報が欲しかった。わずかな情報を得て，皆で頑張りましょうと励まし合ったことを伝えておく。

諏澤委員：２９ページの実績報告の（４）乳幼児健康診査，１歳６か月児健診の部分，（９）の親子すこやか発達教室の実績について質問する。親子すこやか発達教

室は，多くは１歳６か月健診の時に精神的な発達等々の遅れ，言葉の遅れがある親子さんを対象にしていると思うが，こちらの延べ参加人数が前の年，２９年より減っている。と同時に（４）の１歳６ヶ月児検診の受診者実数も減っているが，これは連動していると考えているか。それと同時に精密検査を受けた人数と児童福祉センター等療育に繋がった割合等教えてほしい。

藤内課長：１歳６ヶ月検診の人数が減っていることと，発達教室の組数が減っているのは，まったく無関係ではないとは思うが，連動しているものではないと考えている。その後の数字については，只今持ち合わせていない。

荒木室長：精密検査を受けた人数であるが，受診されたお子さんに精密検査が必要であったかは把握をしている。必要な方は児童福祉センター等に紹介をさせていただき，内部で判定結果の数を計上しているが，この年に何パーセント精密検査につないだという公表は行ってはいない。精密検査以外に所内で経過観察ということで，数か月にもう一度来ていただくようなこともあるし，そのあとに例えば育児面であれば家庭訪問させていただくということもある。その方に応じ，色々個別のフォローを行っている。

諏澤委員：そこのところは存じ上げているが，親子すこやか発達教室の人数が減っているのはどういう背景であったのかなと思ったときに，もしかすると，すこやか教室の人数が減っているが，発達障害が１歳６ヶ月健診時点で強く疑われて，児童相談所の方に繋がったケースがたまたまこの年が多かったのかなと思った。

荒木室長：直接フォローというよりも精密検査の方に繋がったのではないか，数が多かったのではないかということか。

諏澤委員：京都市が出している報告等でも精密検査の人数等を知ることができない。公衆衛生看護学を教えている立場なので，学生に教育するうえでもそういった資料も欲しかった。またどういう事情なのか知りたかったので，質問させていただいた。

荒木室長：学生さんの実習においては，別途個別でお伝えできる範囲でお答えしたい。

高島委員：検診受診率がすごく減っていることが大変気になっている。全国平均からみても京都の検診受診率は低い。今年は，胃がん検診の受診者も減っており，

乳がん検診は横ばい。数年前に比べると，ずいぶん減っている。いわゆる特定健診，健康診断受診率も去年から横ばいだが，以前から比べるとずいぶん減っている。なぜか知らないが検診受診者が減ってきているという現状。なんとか減らないような対策を頑張ってしていただけたらいいかと思う。資料を見て，全ページ下回っているのを見て，都市部と山間部の違いは当然あるものかと思われるが，印象的であったのは，特定健診もそうであるが，日曜に行うと増える。平日に仕事をされる方の率が以前と全然違うので，今みたいに平日に偏っている検診の体制ではなかなか人数は増えないのではないか。勤めている方が仕事から帰ってきて健診に行くというようなことは到底考えられないのではないかなと思っている。その辺のことを抜本的に変えないと根本的には増えないのではないかと思う。

4　閉会挨拶　峯右京保健福祉センター長